

# 『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は  
「シンガポール」

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



第6号(2008年6月23日)

## シンガポールの基本情報

シンガポールは、シンガポール本島と63の島々から成り立っています。面積は東京23区とほぼ同じと非常に小さく、気候は赤道に大変近いこともあり1年を通して雨が多く、高温多湿です。人口は約448万人で、そのうち中国系が75.2%、マレー系が13.6%、インド系が8.8%、その他が2.4%という多民族国家です。そのため、公用語もマレー語、英語、中国語、タミール語と4種類あり、国語がマレー語、英語が行政用語となっています。シンガポールは1959年に英国より自治権を獲得、その後マレーシア連邦成立に伴い、その一州として参加しましたが、1965年にマレーシアより分離、シンガポール共和国として独立しました。

- 首都: シンガポール
- 面積: 699平方キロメートル(東京23区とほぼ同じ)
- 人口: 約448万人
- 民族: 中華系75.2%、マレー系13.6%、インド系8.8%、その他2.4%
- 言語: マレー語、英語、中国語、タミール語
- 宗教: 仏教、回教、キリスト教、道教、ヒンズー教
- 一人あたりGDP: 29,474USD(2006年)
- GDP成長率: 7.9%(2006年)

国章:



## 大使館情報

所在地: 東京都港区六本木5-12-3

\* 東京メトロ南北線、大江戸線の麻布十番駅から歩いて5分ほどの所に、鳥居坂という急な坂道があります。この鳥居坂沿いの右手に見える大きな建物がシンガポール大使館です。



鳥居坂

面会者:

今回お話を伺ったのは、シンガポール共和国大使館の、タン・リンイン一等書記官です。タン一等書記官は2007年4月に来日し、現職に就かれましたが、日本に来る前はシンガポールの財務局(Monetary Authority)で働いていたという、金融部門のスペシャリストです。(2008年4月23日に訪問)

出所: 外務省、シンガポール大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。

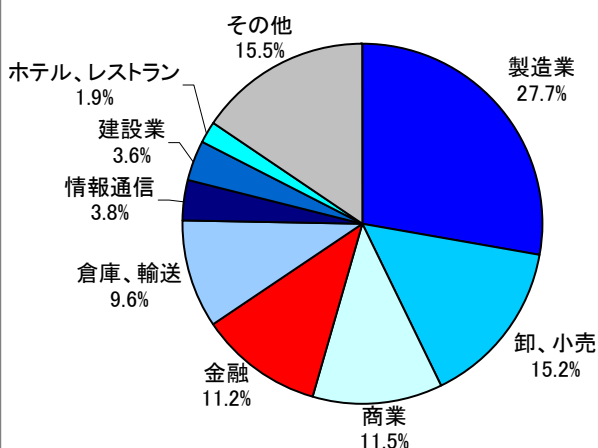


今回ご紹介する国は  
「シンガポール」

## シンガポール経済の概況

シンガポールの主要産業は製造業ですが、金融や観光など他産業の育成に積極的に取り組んでいます。

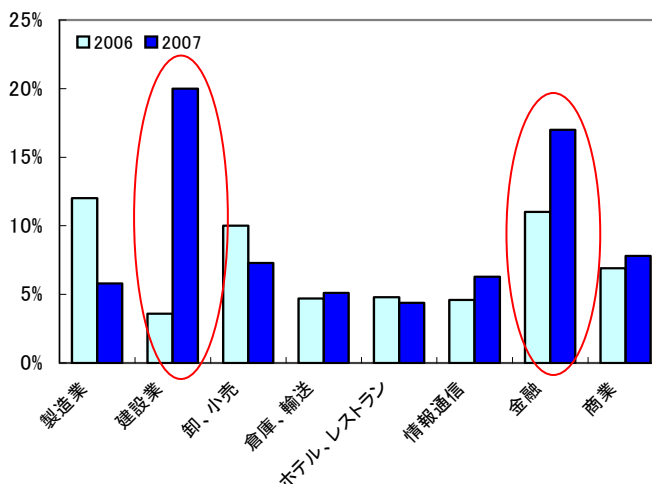
### 1. GDPの業種別構成比(2006年)



製造業が主要産業ですが、他産業の育成にも力を入れています。1970年代には5%だった金融セクターのウェイトは、2006年には11.2%になりました。

出所:シンガポール統計局

### 2. 2006-2007年の業種別成長率



活発なインフラ投資の恩恵を受け、**建設業**が大きく成長しています。また、金融市場が発展を続けていることから、**金融業**が大きな伸びを示しています。

出所:シンガポール統計局

## 金融市場の発展①

### 1. シンガポールの優位性

シンガポールは**国際金融センター**になることを経済発展の基本戦略の一つとしており、現在世界中から**600を超える**金融機関がシンガポールに進出しています。

その理由としては、シンガポールの地理的優位性、好調な国内経済、ビジネス環境、優れたインフラ、国際感覚を兼ね備えた労働者、などがあげられます。実際にシンガポールは世界の主なビジネス関連ランキングにおいて、軒並み上位にランク付けされています。

### 世界の主なビジネス関連ランキング(抜粋)

- ・IT関連のインフラランキング **第1位**
- ・世界で最も国際化が進んだ国ランキング **第1位**
- ・ビジネスのしやすさランキング **第1位**
- ・低ビジネスコストランキング **第1位**
- ・低法人税ランキング **第2位**
- ・低個人所得税ランキング **第2位**
- ・駐在員が選ぶアジアの優れた国ランキング **第1位**
- ・政府の効率性ランキング **第1位**
- ・アジアのコーポレートガバナンスランキング **第1位**
- ・アジアの労働力ランキング **第1位**

出所:シンガポール経済開発庁(2006/2007年)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。

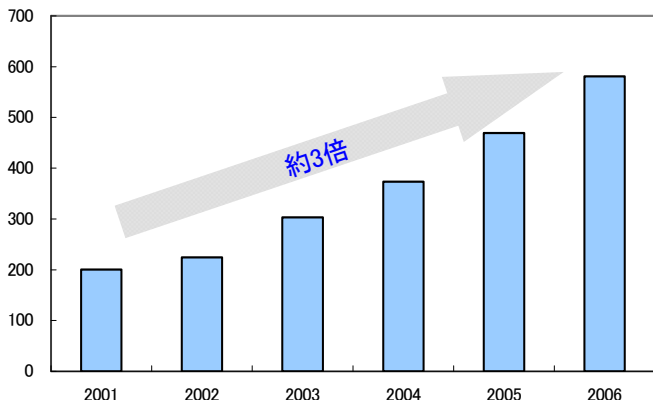


今回ご紹介する国は  
「シンガポール」

## 金融市場の発展②

### 2. 資産運用ビジネスの運用資産残高

(10億USD)



2001年から2006年までの6年間、シンガポールの資産運用ビジネスにおける運用資産残高は、毎年2桁の力強い成長を続けてきました。2006年末における運用資産残高は、約5,810億米ドルに達しています。

出所:シンガポール金融庁

### 3. 2007年と2017年の100万ドル以上の資産保有世帯比率

	2007年	2017年
1 香港	26.4%	<b>シンガポール 40.7%</b>
2 <b>シンガポール</b>	<b>23.3%</b>	香港 39.4%
3 スイス	22.3%	スイス 28.1%
4 デンマーク	17.9%	米国 24.2%
5 英国	15.6%	デンマーク 21.7%
6 アイルランド	14.8%	日本 21.3%
7 米国	14.7%	英国 18.9%
8 オーストラリア	11.9%	アイルランド 17.7%
9 イタリア	11.8%	オランダ 17.6%
10 フランス	11.7%	ベルギー 17.0%

住宅価格の高騰などを受けて、シンガポールは2017年には100万ドル以上の資産を持つ世帯の比率が約40%と世界最高の比率になると予想されており、今後も富裕層向け金融ビジネスの機会が膨らむと見られています。

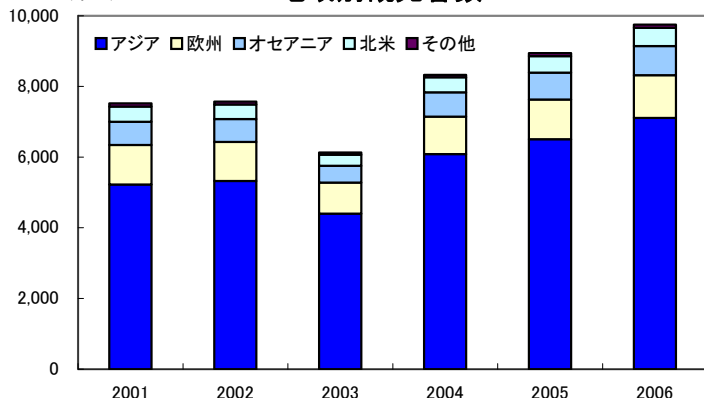
出所:英バークレイズ (08年5月時点)

## 観光産業の育成①

シンガポールでは、海外からより多くの観光客を誘致するために様々なプロジェクトを実行しています。

### 地域別観光客数

(千人)



2003年以降観光客は年々増加していますが、近年特にアジア地域からの観光客が著しく増加しています。



出所:シンガポール統計局



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は  
「シンガポール」

## 観光産業の育成② シンガポールで現在進行中の観光開発プロジェクト

### 1. 世界最大の観覧車

2008年3月にオープンした、  
最高地点が165mとなる**世界  
最大の観覧車**「シンガポ  
ール・フライヤー」には、30人  
乗りのカプセルが28基あり、  
約37分かけて1周します。  
シンガポールのビル群、開  
発中のマリーナ地区を始め、  
晴れた日にはマレーシアや  
インドネシアまで見渡せます。



### 2. F1グランプリ開催

2008年9月28日にシンガ  
ポール マリーナ地区の  
市街地コースにて、同国  
初のF1グランプリが開催  
されます。  
本大会は**F1史上初の夜  
間開催(ナイトレース)**となる  
予定で、80,000人の観戦客  
と、6,800万USドルの関連  
消費が見込まれています。



### 3. 総合リゾート開発計画

現在マリーナ・ベイ、セント  
ーサ島と2つの総合リゾート計画  
が進行中です。マリーナ・ベイ  
の総合リゾートは**ラスベガス・  
サンズによる東南アジア初の  
高級総合リゾート**で、最新の  
会議施設、国際的に名高いレ  
ストラン、5つ星ホテル(3軒)、  
カジノなど全てが結集した  
一大リゾート地となります。



### 4. ユースオリンピック開催

2010年に行われる、**第一回  
ユースオリンピック**の開催地  
がシンガポールに決定しま  
した。ユースオリンピックは  
14歳から18歳までの選手を  
対象とした大会で、ビーチレ  
スリングなどの新しい競技を  
含む、計26種目の競技が行  
われます。



出所:シンガポール政府観光局、F1シンガポールGP公式サイト、シンガポールオリンピック委員会

### 訪問を終えて

シンガポールでは将来を見すえて、1965年の独立以来、国際金融センター化構想を経済発展の基本戦略の一つとしてきました。シンガポールにおける金融セクターの重要度は日に日に増してきており、国際金融センターとしての地位も確立しつつあります。国内の富裕層の人口は今後増加していくことが予想され、また近年海外からの資産運用ビジネスへの参入も活発になってきていることから、今後ますます金融セクターの重要性が高まっていくのではないかと思います。その他、海外からの観光客を誘致するため観光開発にも力を入れており、製造業以外の産業を積極的に育成しようという政府の姿勢が伺えます。日本としても見習うべき点の多い、シンガポールの今後の動きに要注目です。  
(これらは全て2008年4月末現在の情報です)

取材・編集: スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部 投信グループ



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。